

岡山県支部だより

草野 功*1 西崎哲一*2 杉山 斉*3

1 岡山県医師会透析医部会設立の経緯

岡山県支部の設立は平成9年と日本透析医会の設立より10年遅れての設立である。透析患者数は透析医術の進歩により全国的に多くなり、昭和48年の健康保険法改正により透析療法が保険適用となり一層、増加してきた。そのような状況の中、透析担当の医師関連団体の結成が地域単位で結成されてきた。岡山においてもその機運は高まっていた。

岡山では透析医療の黎明期であった昭和40年初頭から岡山透析懇話会が有志により開催されており、情報交換の場となっていた。この透析懇話会は平成27年11月14日に、100回の記念講演会で岡山県医師会透析医部会を含めて活動が報告された。また腎臓病患者団体である岡山県腎臓病連絡協議会も早い時期から結成され活発な活動がなされていた。県行政からも透析施設の充実・通院可能施設、特に県北部への透析施設の導入などの要望が強く寄せられていた。

平成7年1月に発生した岡山の隣県である兵庫県の阪神淡路大震災では、透析患者の被った悲惨な状況が報道され、特に、透析関連に対しては災害に対する準備がいかに大切であるか痛感した。さらに岡山県内におけるO・157大腸菌感染症による溶血性尿毒症候群の発生に備えての透析医療体制の確保について岡山県保健福祉部からの要望など私に相談あり、早急に透析医療関連部会の必要性を感じた。

当時、医師会内での透析医療に対する関心は希薄であったが、私は岡山市医師会長・県医師会参与として医師会活動に参画していたので県医師会の一部会（岡山県医師会透析医部会）としての参入を強く要望し、承認されることになった。全国的にも医師会の部会として存在している県はなかった。調査した中には災害対策を盛り込んだ会則はなく同好会的な規約だった。これでは災害対策には役立たないと考えられた。関連団体も行政も動かせないと災害対策はできないと考えた。そこで積極的に県・市町村の災害対策の見直し、電気・水・薬剤供給などの関連組織にも相談し、透析患者の救済に必要な準備を整えていった。このように、組織立った計画は、県医師会の部会に所属する立場からの提言でなければ認められないとの考えがあったからだった。

このように、公的立場の医師会一部会になったのは日本ではじめてのことと思われる。日本透析医会災害対策委員会にも岡山方式として参照されたことは、当時の故笹木担当理事から報告を受けている。

(草野)

2 活動内容

岡山県医師会透析医部会は学術講演会を医師以外の透析関連職種を含めて研鑽・交流・懇親、また保険診療内容検討会も行い、透析医学会時に行われる中央での検討会の資料としている。

透析医部会では各々の透析医療機関同士の信頼関係を保ちつつ地域医療を守るため透析患者の誘導は慎むべきこととしているので医療機関同士のトラブルはありません。それぞれの透析医療機関の特色を生かした利用が行われているのが現状だが、患者からの医療機関へのクレームについては、岡山県腎臓病連絡事務局へ相談のうえ透析医部会に相談があるので検討・指導解決している。

平成 29 年 11 月 11 日は設立 20 周年を開催し秋澤忠男日本透析医会会長をお迎えして「透析医療温故知新：新たな 20 年を迎えて」と題した記念講演をしていただき感銘を受けた。

最後に毎年秋ごろ行う三者懇談会（NPO 岡山県腎臓病連絡協議会・岡山県保健福祉部医薬安全課・岡山県医師会透析医部会）が行われ、当面の諸問題（災害時透析・通院問題・介護保険、診療報酬改定・通院問題・就労支援事業など）が検討されている。このような三者が集う懇談会として定期的に行われている地域は全国的に少ないためか、全国の他地区患者団体から注目され、他地区からオブザーバーで出席することもある。

また、毎年 5 月 1 日、全県下の透析患者数を調査し岡山県保健部医薬安全課に報告している。令和元年 4 月末日では透析患者数は 5,359 名（PD：219 名、HD：5,140 名）であった。岡山県下では毎年 100 名前後の透析患者数が伸びているが最近は若干の減少傾向にある。

平成 28 年 1 月から透析部会員総意のもと透析医部会が中心となり岡山大学医学部に寄付講座を開設した。（草野）

3 災害対策

岡山県透析関連企業災害岡山県透析医会の設立の大きな目的の一つが、透析医療災害対策であった。このことは現在も引き続き継続され、透析施設間、透析患者には大きな安心感を与えている。

近年の相次ぐ大災害で、防災に対するモチベーションは上がりつつあったが、平成 30 年 7 月の西日本豪雨災害時、県下で 1 施設（まび記念病院）が冠水して透析不能となった。災害時情報ネットワークなど活用して、透析患者 100 人を県内 18 施設にスムーズに受け入れ移送を行った。これらの経験を通して、今一層の防災の必要性を会員全体が肌で痛感、さらに前向きに取り組んでいる。

災害時には、情報ネットワーク利用の施設間連携はもちろんであるが、関連行政機関との連携はさらに重要と考えて、毎年、患者会役員も交えて三者で情報交換を行っている。また、災害の広域化を念頭に、中国 5 県合同透析施設災害対策会議を行っている。さらに、透析機器、薬品などの不足に備え、透析関連企業にも防災訓練参加を要請し、実施している。

現在、利便性を考えて、災害情報ネットワークの PC からスマホアプリへの変更を検証中である。西日本豪雨災害時、スマホの電池切れにて混乱した経緯より、各施設に蓄電式充電器を支給した。

以下に平成 30 年度、災害対策の活動報告を経時的に略記する。

4 月 岡山県内透析患者数調査（結果は県医薬安全課に報告）

同時に防災責任者調査の確認・対策連絡会議開催

5 月 岡山県透析関連企業災害対策連絡会議開催

6 月 第 19 回災害情報ネットワーク会議（全国）参加

- 7月 平成30年西日本豪雨災害に対応、緊急災害対策委員会開催
- 8月 第19回災害情報伝達訓練(全国)、中国5県合同で参加
- 10月 県腎協・県庁関連課・透析部会役員の三者懇談会
- 11月 第14回中国5県合同透析医療災害対策会議参加
- 11月 岡山県透析施設防災責任者会議開催
- 3月 透析施設災害用スマホアプリ説明会

(西崎)

4 寄付講座

岡山県医師会透析医部会の所属施設を主体とした寄付により、平成28年1月、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科に血液浄化療法人材育成システム開発学講座を開設した。現在4年目に入っており、以下の活動などを通じて、血液透析を主体とする血液浄化療法に関する人材育成とそのシステム構築に関する教育、研究を推進している。

① アクセス地域連携の促進

岡山アクセスセミナーの開催、実技講習

② 透析患者の感染症への対策

岡山HIV透析医療講習会の開催、患者発生時の診療連携、施設間で具体的な対策の共有
岡山県の肝炎対策と連携した岡山県版の治療の流れ、透析患者のC型肝炎治療受入可能病院リストの作成、年間治療数の調査

③ 岡山透析懇話会の運営支援

日本透析医学会の地方学術集会の単位取得、医師・スタッフの教育・研究レベルの向上、地域の透析医療水準向上
慢性腎不全管理セミナー開催

④ 岡山県の透析患者数と分布の推移に関する調査

平成30年より5年間の予定、岡山県の市町村別の透析導入患者数、維持透析患者数の経年推移、各自治体におけるCKD対策の効果検証、市町村別のCKD対策の策定

(杉山)